

6. 事業内容	第 2 期までの事業では、カフエ郡及びチランガ郡（旧カフエ郡）内 3 箇所の地域において、抗レトロウイルス療法（Antiretroviral Therapy: ART）センターの建設、新しい患者情報管理システムの導入、服薬支援ボランティア及び学校エイズ対策クラブの育成を通じ、地域における ART 患者への服薬支援体制の基礎づくりと強化を行ってきた。今次第 3 期では、持続性のある ART 支援体制を確立するとともに、これまでの活動成果と課題を踏まえ、病状が深刻で来院が困難な患者等、ART 患者の中でもより治療から脱落する危険性が高い層へも支援が行き届く体制づくりを目指す。 （ア）ART センターの建設と整備 今次事業においては、第 2 期までに建設した 3 クリニックの ART センターの環境整備を行う。マウントマクル、ナンゴングウェの 2 クリニックに、患者の免疫状態や抗レトロウイルス（ARV）薬の処方判断する上で重要な指標となる血液中の CD4 陽性 T リンパ球数を測定するための検査装置（CD4 測定器）を、また、ナンゴングウェ、ムウエンベシの 2 クリニックに自転車用救急搬送カートを提供する。これらの資機材供与により、病状が深刻な患者に対しても迅速に治療を提供できる環境が整備される。なお、ムウエンベシには CD4 測定器が、マウントマクル周辺地域の自助組織には自転車用救急搬送カートがすでに備わっているため対象外とした。また、来院患者が診察までの待ち時間を利用して ART に関する知識を習得できるよう、3 クリニックの ART センターの待合室に啓発映像上映用の TV、DVD プレイヤーを設置する。さらに、カウンセリング室にはコンドーム装着実演用の模型も設置する。 （イ）ART 患者情報管理システムの改善と確立 第 2 期に引き続き、患者情報管理ソフトウェア（スマートケア）の利用の定着を図る。あわせて、新規患者の登録の際に正確な情報が取得でき、来院しない全患者へ家庭訪問ができる体制を整える。 （ウ）服薬支援ボランティアの育成と自立支援 今次第 3 期では、ボランティアの活動持続性力の強化と、服薬支援活動の質の向上を目指す。 まず、活動持続力の強化にあたっては、第 2 期に引き続き、資金調達能力強化のためのワークショップを実施する。本ワークショップでは、第 2 期で各クリニックのボランティアが策定する資金調達計画を踏まえ、プロポーザルライティングなど資金獲得のための実践的な技術を教授する。 次に、服薬支援活動の質の向上については、3 クリニックのボランティア間での経験共有ワークショップを開催し、ボランティアがこれまでの家庭訪問活動を通じて直面した課題とその解決策を共有、治療継続に困難を抱える患者への傾聴法など、より効果的な家庭訪問実施のための手法を学ぶ。さらに、病状が深刻なために通院困難な患者への対応として、患者介助のためのワークショップを実施し、救急搬送カートへの患者の移乗等の技能を身に付ける。 （エ）ART 患者及びその親近者に対する啓発活動実施 ART 患者及びその親近者への HIV/エイズ基礎知識及び服薬遵守に関するワークショップを継続実施する。今次事業では、HIV/エイズ基礎知識、服薬遵守、治療中の栄養摂取等の項目に加え、アルコールの過剰摂取等、服薬遵守の上
---------	--

で大きな障害となりうる項目も盛り込み、より充実した啓発活動を実施する。今次事業ではクリニック通院患者に加え、来院が長期にわたって途絶えている患者の参加拡大を目指し、参加者の募集及び登録をクリニック以外の場所でも行う。さらに、通院を中断している潜在的な ART 患者に対し治療の再開を喚起することを目的として、マーケットをはじめとする人口密集地において啓発プログラム映像の上映会も実施する。

(オ) 学校エイズ対策クラブに対する予防啓発活動実施

第 2 期までに、各種ワークショップを通じ、各校の活動計画の策定を支援し、HIV/エイズに関する知識や、ファシリテーション方法などの啓発活動に必要な技術を教授した。第 3 期ではこれを踏まえ、各校が主体となって地域における啓発活動を実施するにあたり、必要な物品の供与や助言を通じた支援を行う。各校のクラブメンバーはそれぞれの活動計画に沿って、校内におけるスピーチや演劇、また映像上映を通じた生徒への啓発活動や、地域で戸別訪問による巡回型の啓発活動等も行う。また、各校のクラブメンバーによる交流活動を行い、啓発活動を実施する際の工夫や課題及び解決方法の共有を通じて継続的改善を図る。加えて、学校間の友好関係や適度な競争意識を涵養することで、全ての学校における予防啓発活動の活性化を目指す。

上記の活動を通じ、以下の状態を目指す。今次事業においてクリニックの機能が強化され、郡保健局が適切に維持管理することで、事業終了後も ART 患者が継続して通院する。また、患者の来院状況を短時間で正確に把握するシステムが各クリニックに定着し、事業終了後も、クリニック職員及び服薬支援ボランティアが家庭訪問を通じて治療再開を促すべき患者を常時把握できるようになる。服薬支援ボランティアは、事業期間内に培った家庭訪問の経験に加え、活動維持のための資金的基盤を整える能力も身に付けることで、事業終了後も活動を継続することができる。また、他クリニックのボランティアとの関係を維持することで活動の質を高め合い、さらに、病状により通院困難な患者の介助も可能となる。また、長期間来院していない患者を含む患者とその親近者がともに服薬遵守の重要性を認識し、ワークショップ参加後も治療を継続する。最後に、学校エイズ対策クラブメンバーとその指導者が、今次事業で実施する予防啓発活動の中で経験を積み、事業終了後も自発的に学校内及び地域での予防啓発活動を実施できるようになる。これらを以って、服薬治療を継続できる ART 患者が増加するとともに、HIV/エイズに関する予防啓発活動が活性化されることで、事業地におけるエイズの脅威が軽減される。

7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	① これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果） （ア）マウントマクル及びナンゴングウェ両クリニックに ART センターを建設し、さらに情報管理機能強化のための PC やコピー機、患者ファイル用棚を供与した。これにより、プライバシーが守られた環境での受診が可能になったことに加え、患者情報の集積・管理が容易となった。ムウエンベシ・クリニックにおいては ART センター建設が 2014 年 5 月に着工した。6 月末時点で基礎及び上部構造工事が完了しており、7 月現在では屋根組みと左官工事を行っている。8 月には竣工の予定である。 （イ）マウントマクル、ナンゴングウェ両クリニックにおいては、長期にわたって来院が途絶えている患者と現在の患者の予約状況を、台帳を用いて把握するシステムが定着した。ムウエンベシにおいては長期にわたり来院が途絶えている患者 607 名の一覧表が作成され、これをもとに家庭訪問が実施されている。台帳を用いた情報管理と並行して、マウントマクル、ナンゴングウェにおいては、スマートケアによる患者情報の電子化を目指し、データ入力作業を進めている。2014 年 5 月末の時点でマウントマクルでは 350 名（同院で治療を受けている患者の 61%）、ナンゴングウェでは 3,669 名（同院で治療を受けている患者の 89%）の登録が完了している。 （ウ）マウントマクル、ナンゴングウェ、ムウエンベシ・クリニックにおいてそれぞれ 10 名、12 名、25 名の服薬支援ボランティアを選出した。マウントマクル、ナンゴングウェにおいて「HIV/エイズ基礎知識」「年間活動計画策定」「服薬支援と家庭訪問活動準備」「自転車維持管理」「経験共有」「心理社会カウンセリング」研修を実施し、ムウエンベシにおいて「年間活動計画策定」「服薬支援と家庭訪問活動準備」「自転車維持管理」研修を実施した。これによりボランティアが服薬支援に必要な知識や技能を習得した。2014 年 5 月までにすべてのクリニックに家庭訪問用の自転車を供与し、2014 年 6 月末までの時点でマウントマクルでは 157 名、ナンゴングウェでは 541 名、ムウエンベシでは 402 名の患者の家庭訪問が実施された。各クリニックの服薬支援ボランティアは家庭訪問活動以外にも、ART 診療日には自発的に ART センターに出勤し、カルテの出納・整理、来院患者の体重・体温・血圧測定などの補助業務を行ったり、定例会を開催し、家庭訪問実施状況の共有や、実施にあたっての課題、解決方法等の協議を行うなど、自発的活動の定着が確認されている。 （エ）3 カ所のクリニックに通院する ART 患者及びその親近者に対し、HIV/エイズの基礎知識及び ART 服薬支援に関するワークショップを 24 回実施し、ART 患者及び親近者あわせて 752 名が参加した（2014 年 6 月末時点）。第 2 期に入り、第 1 期事業に実施したワークショップの振り返りを行った結果、講義中心の情報提供に偏りがちであったり、参加者にとり内容が高度すぎるという反省点が挙げられたため、ゲームやロール・プレイ、また DVD 等の視聴覚教材を取り入れる、重要なポイントをまとめるなどして、参加者が終始集中して学べるよう改善を行った。この結果、参加者からの質問や発言が増える等、積極的な参加が見られるようになった。ワークショップ実施後の確認テストにおいては、参加者の 8 割の正答率が 60 パーセント以上に達しており、指標以上の知識の定着が確認できている。 （オ）ムウエンベシ地域においてムウエンベシ中高等学校、ウェストウッド小学校、ムパンバ小学校、マーノ小学校の 4 校を活動支援対象校として選定
--------------------------------	---

	し、その後、各校が年間活動計画を策定した。2014 年 6 月末までの時点で各校のエイズ対策クラブの顧問教師を対象とした指導者研修を 2 回、各校のクラブメンバーを対象にした HIV/エイズ基礎知識ワークショップを 2 回実施した。HIV/基礎知識ワークショップ後の知識確認テストにおいて、参加者の 8 割の正答率が 80%以上であった。上記の指導者研修においては、地域の首長や助産婦など、地域の有力者にも参加してもらい、地域における予防啓発活動への理解を深めてもらった。これらの活動を通して、各校が予防啓発活動を実施するための能力・体制を強化した。 ②これまでの事業を通じての課題・問題点 （オ）ワークショップに参加した教師より、日当の支払がなかったことへの不満が上がった。教師への日当については郡教育局が負担することを、当会と郡教育局との間で事前に合意し、覚書を結んでいるが、遵守に至っていない。 ③上記②に対する今後の対応策 （オ）覚書の遵守を求め、当会が引き続き郡教育局への働きかけを行う。
8. 期待される成果と成果を測る指標	本事業を通じ、より多くの ART 患者が質の高い医療サービスを受けられる環境が整うとともに、地域の中で HIV/エイズに対する理解が深まり、ART 患者が周囲の支えを得て服薬を続けることができるようになる。これにより ART 患者が社会経済活動に復帰し、社会の一員として希望を失うことなく積極的に地域の発展に貢献していけるようになることが期待される。 （ア）ART センターの建設と整備（第 3 期） 【成果】（第 1-3 期共通）ART センターを建設、整備することで、患者が適切な環境下で ART を受けられるようになる。 【指標】①整備後の施設使用満足度調査で、ART 患者の 8 割が満足と回答する（第 1 期マウントマクル、ナンゴングウェ両クリニック、第 2 期ムウェンベシ・クリニック）。本指標の報告は第 2 期までとする。 （イ）ART 患者情報管理システムの改善と確立（第 3 期） 【成果】（第 1-3 期共通）クリニックにおいて、ART 患者の通院及び服薬モニタリングの情報管理システムが改善または構築される。 【指標】（第 1-3 期共通）クリニック及び服薬支援ボランティアが、予約日に来院していない全 ART 患者情報一覧を作成、共有し把握する。 （ウ）服薬支援ボランティアの育成と自立支援（第 3 期） 【成果①】（第 1-3 期共通）服薬支援ボランティアが、ART 患者の状況に応じて、カウンセリングや照会など服薬継続に必要な対応ができるようになる。 【成果①指標】②家庭訪問記録表により、予約日に来院しなかった患者の 90%（第 3 期、3 クリニック平均）に家庭訪問を実施したことが確認される。 【成果②】（第 3 期）服薬支援ボランティアグループが、本事業終了後も継続して活動するために必要な組織運営力や資金調達力を習得する。 【成果②指標】（第 3 期）服薬支援ボランティアグループが所得創出活動や資金調達のための申請書を作成する。 （エ）ART 患者及びその親近者に対する啓発活動実施（第 3 期） 【成果】（第 1-3 期共通）ART 患者及びその親近者が、HIV/エイズや ART につ

	いて正しく理解し、正しい服薬方法で服薬が継続できるようになる。 【指標】①患者本人及びその親近者を対象に、ART に関するワークショップが、(第 1-3 期共通) 各年 20 回以上開催され、計 600 名が受講する。②(第 1-3 期共通) ワークショップ実施後の知識確認テストで、受講者の 7 割が 60 点以上をとる。 <u>（オ）学校エイズ対策クラブに対する予防啓発活動実施（第 3 期）</u> 【成果】(第 2-3 期共通) ムウエンベシ地域の学生の HIV/エイズに関する知識が向上し、地域で啓発活動が行われる。 【指標】②(第 3 期) エイズ対策クラブが、計 1, 600 人以上の学生及び地域住民に対し、啓発活動を実施する。 本事業(計 3 年間) 終了時の裨益者数見込みは以下の通りである。 【第 1 期】直接裨益者 18, 620 人 (ART 患者とその親近者、服薬支援ボランティア)、間接裨益者 対象地域住民約 59, 000 人 (2 地域計) 【第 2 期】及び【第 3 期】直接裨益者 30, 745 人 (ART 患者とその親近者、服薬支援ボランティア、学校エイズ対策クラブメンバー及び担当教師)、間接裨益者 対象地域住民約 67, 000 人 (3 地域計) (見込み)
--	--